鹿児島県立与論高等学校 平成23年度 第41回卒業式

旅立ちの春 56名 それぞれの道へ

第41回県立与論高等学校卒業式が3月1日に行われ、恩師や保護者、在校生が温かく見守る中、男子21名、女子35名、計56名の卒業生が新たな一歩を踏み出しました。

ひとつの島、ひとつの町にあるひとつの高校で、学習やボランティアなど、様々な体験をしてきた生徒たちに向け校長先生は「人間は個人的な存在であると共に社会的な存在です。人の生き方への共感と思いやりがなければなりません。人の痛みや悲しみを心から理解し、豊かな感性を高めながら深い教養を身につけた人になってほしいと思います。」と激励しました。

また、卒業生を代表して町岡太陽さんは、「先の震災で、まだ以前の生活を取り戻せていない大勢の人がいます。わたしたちはそんな中、社会に飛び出すことになります。戸惑ったりするときは、今この場にいる仲間のことを思い出してください。大変な状況にある、すべての人々の笑顔のためにも、力を合わせるときです。」と、厳しい社会状況の中、島立ちを前にした決意を、力強く述べました。

卒業生の皆さん、それぞれに進む道は違っても、与論島での思い出を胸に、新たな夢に向かってがんばってくださいね！

鹿児島県最南端の島から、最先端の学びを目指して

本町3小学校に、「ICT（情報通信技術）」を試験導入

教育分野においては、世界各国でICTを利活用した先進的な取り組みが進んでいます。

我が国でも、公立小・中学校へのICT環境の整備が進む中、本町の3小学校が、NTTグループが主体となって進めている「教育スクウェア ×ICT」事業におけるフィールドトライアル校として選ばれました。

この事業は、同グループが国の公教育ICT化の施策と連携してICTを利活用した新しい教育の実現を目指し進められています。

期間は、平成23年度から最長3年間。本町3小学校を含め全国5自治体の公立小・中学校計10校において、学校教育にICTを導入し、その効果や課題を検証していきます。

「電子黒板」に「タブレット端末」最先端の授業はこのように行われています。

教室に入って、一番先に目をひくのが「電子黒板」。大きなモニターに、動画やさまざまな資料を表示します。

また、子どもたちの手元には「タブレット端末」が置かれ、これらの機材をつかって、よりわかりやすい授業が進められています。

このタブレット端末は、自宅に持ち帰り、授業の復習や家庭学習にも使用されています。

「最南端は最先端」の教育活動を期待

与論町教育委員会教育長　田中國重

「教育スクウェア ×ICT」事業では、テレビ会議システム、デジタル教科書、デジタル教材ライブラリーや、電子黒板などの最先端のシステムを活用して授業を行っています。

たとえば、算数科「立体」の学習では、タブレットを使って立体の特徴を調べてまとめていく学習活動を行いました。また、社会科「日本の工業」の学習では、テレビ会議システムを使って、自動車ができるまでの様子や開発の工夫などを、教科書に掲載されている方に実際にインタビューをして教えていただきました。そのほか、新潟県や秋田県の小学校とテレビ会議システムを使った交流学習も行われ、子どもたちは画面越しに仲良く自分たちの郷土について紹介し合いました。

今後も、最先端のICTの利活用により、「最南端は最先端」を目指した教育活動が展開されていくことを期待します。

～ICTで、こんな授業も実現～ 楽しくアニメーションをつくろう！

VISCUIT（ビスケット）は端末上に自由に絵を描き、そして動かすことができるプログラムです。

授業では、このプログラムを開発した原田先生が直接子どもたちに使い方の指導をしました。

子どもたちは、「夏」と「動物園」のテーマ毎に、端末の画面上に指を使って絵を描きました。操作の理解も早く、端末上で動かしたり、みんなの絵をひとつの画面にまとめて発表をしたりしました。